

大阪大谷大学

平成二十九年 度 入学試験問題（一般入試 中期）

国 語

注意事項

- 一 問題用紙は全部で十ページです。解答用紙は一枚です。
- 二 解答用紙の所定欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三 解答はすべて解答用紙の所定欄に記入してください。
- 四 問題用紙は持ち帰ってください。

□ 次のA・Bの文章をよく読んで、後の問いに答えよ。(設問に字数制限がある場合、すべて句読点等は字数に含む)

A

35歳になった春、彼は自分が既に人生の折りかえし点を曲ってしまったことを確認した。
いや、これは正確な表現ではない。正確に言うなら、35歳の春にして彼は人生の折りかえし点を曲ろうと決心した、ということになるだろう。

もちろん自分の人生が何年つづくかなんて、誰にもわかるわけではない。もし78歳まで生きるとすれば、彼の人生の折りかえし点は39ということになるし、39になるまでにはまだ四年の余裕がある。それに日本人男性の平均寿命と彼自身の健康状態をかさねあわせて考えれば、78年の寿命はとくに 1 な仮説というわけでもなかった。

それでも彼は35歳の誕生日を自分の人生の折りかえし点と定めることに a イツペンの迷いも持たなかった。そうしようと思えば死を少しずつ遠方にずらしていくことはできる。しかしそんなことつづけていたら俺はおそらく明確な人生の折りかえし点を見失ってしまうに違いない。b ダトウと思われる寿命が78が80になり、80が82になり、82が84になる。そんな具合に人生は一寸刻みに引きのばされていく。そしてある日、人は自分がもう50歳になっていることに気づくのだ。50という歳は折りかえし点としては遅すぎる。百まで生きた人間がいったい何人いるというのだ？ 人はそのようにして、c 知らず知らずのうちに人生の折りかえし点を失っていくのだ。彼はそう思った。

二十歳を過ぎた頃からその〈折りかえし点〉という考え方は自分の人生にとって欠くべからざる要素であるように彼は感じつつ増えてきた。自らを知るには自らの立った場所の正確な位置をまず知るべきだというのが彼の考え方の基本だった。

あるいはそういった考え方には、彼が中学校に入ってから大学を卒業するまでの十年近くをトップクラスの水泳選手として送ったという事実も少なからず c エイキヨウを与えていたかもしれない。水泳というスポーツには、たしかに区切りが必要だった。指先がプールの壁に触れる。それと同時に彼はイルカのように水中で身を踊らせ、一瞬にして体の向きを変え、足の裏で思い切り壁を蹴る。そして

後半の200メートルへと突入する。それがターンだ。

もし水泳競技にターンがなく、距離表示もなかったとしたら、400メートルを全力で泳ぎきるといふ作業は救いのない暗黒の地獄であるにちがいない。ターンがあればこそ彼はその400メートルをふたつの部分に区切ることができるのだ。(これで少なくとも半分は済んだ)と彼は思う。次にその200をまた半分に区切る。(これで4分の3は済んだ)。そしてまた半分……、という具合に長い道のりはどんどん細分化されていく。距離の細分化にあわせて、意志もまた細分化される。つまりへとにかくこの次の5メートルを泳いでしまおう)ということだ。5メートル泳げば400メートルの距離は80分の1縮まることになる。そのように考えればこそ、彼は水の中であるときには嘔吐し肉を痙攣させながらも最後の50メートルを全力で泳ぎきることができたのだ。

他の選手たちがいったいどのような思いを抱いてプールを往復していたのかはわからない。しかし彼にとってはその分割方式がいちばん性にあっていたし、またいちばんまっとうな考え方であるように思えた。物事がどのように巨大に見え、それにたちむかう自分の意志がどのように微小に見えても、それを(5メートルぶん)ずつ片づけていくことは決して不可能ではないという事実を、彼は50メートル・プールの中で学んだ。人生にとつていちばん大事なことはきちんとした形をとつた認識なのだ。

だから35回目の誕生日が目前に近づいてきた時、それを自分の人生の折りかえし点とすることに彼はまったくためらいを感じなかった。怯えることなんて何ひとつとしてありはしない。70年の半分の35年、それくらいでいいじゃないかと彼は思った。もしかりに70年を越えて生きることができたとしたら、それはそれでありがたく生きればいい。しかし公式には彼の人生は70年なのだ。70年をフルスピードで泳ぐ——そう決めてしまうのだ。そうすれば俺はこの人生をなんとかうまく乗り切っていけるに違いない。

(村上春樹「プールサイド」による)

B

ぼくは村上春樹の小説を読むようになった。春樹は好きな作家ではなかった。ぼくの世代の「批判的」な小説家は、たいていは春樹を軽蔑するように訓練されており、ぼくもまた例外ではなかった。けれども、深夜の研究室で、ぼくはいつしか春樹の作品を読みふけるようになった。ドイツで文学賞を受賞した最新の長編から始め、デビュー作へと遡るように読み進めるようになっていた。そし

てぼくは、初期の短編のなかに、「元水泳選手の男」が三五歳の誕生日を迎えて、煙草を吸ったり妻のネガオを眺めたりしたあとなせか一〇分間だけ涙を流すという、ただそれだけの物語を発見した。

ぼくは考えた。ひとの生は、なしとげたこと、これからなしとげられるであろうことだけではなく、決してなしとげなかったが、しかしなしとげられる《かもしれないなかった》ことにも満たされている。生きるとは、なしとげられるはずのこの一部のなしとげたことに変え、残りをすべてなしとげられる《かもしれないなかった》ことに押し込める、そんな作業の連続だ。ある職業を選べば別の職業は選べないし、あるひとと結婚すれば別のひととは結婚できない。直説法過去と直説法未来の総和は確実に減少し、^⑤仮定法過去の総和がそのぶん増えていく。

そして、その両者のバランスは、おそらくは三五歳あたりで逆転するのだ。その閾値を超えると、ひとは過去の記憶や未来の夢よりも、むしろ^⑥仮定法の亡霊に悩まされるようになる。それはそもそもがこの世界に存在しない、蜃気楼のようなものだから、いくら現実成功を収めて安定した未来を手にしたとしても、決して憂鬱から解放されることがない。だから、「元水泳選手の男」は、「やりがいのある仕事と高い年収と幸せな家庭と若い恋人と頑丈な体と緑色のMGとクラシック・レコードのコレクションを持っていた」としても、涙を流す。ぼくは春樹の短編をそう解釈した。そして本を閉じた。

ぼくもまた三五歳を迎えていた。だから春樹の描いた感覚はよく理解できた。けれどもぼくと春樹のあいだには決定的な違いがあるようだった。春樹の短編では、涙と物語の力で蜃気楼が消えることになっていた。「元水泳選手の男」は、涙が染みたクッションを裏返し、そしてその経験をプールサイドで作家に語ることで、迷いのない人生に戻っていくのだった。彼は残りの人生をタフに、2「ことを決意したのだ、と春樹は記していた。ぼくにはそう考えられそうにはなかった。ぼくはむしろ、泳ぐのを止め、プールサイドによじ登り、スタート地点まで駆け戻ってすべてをリセットしたい衝動に駆られていた。そもそもぼくは、春樹の主人公とは違って、毎晩のように鏡で全身をテンケンし、プラスとマイナスをリストにして鍛錬に励むことなど、決してできそうにないのだ。た。

(東浩紀「クオンタム・ファミリーズ」による)

(注) MG: イギリスの高級スポーツカー。

問一 二重傍線部 a ㄣ e のカタカナを漢字に直せ。

問二 空欄

1

 に入る最も適当な語を、次のアㄣエの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 主観的 イ 客観的 ウ 楽天的 エ 悲観的

問三 傍線部①「人生は一寸刻みに引きのばされていく」について、

(1) このような表現技法を何と言うか、次のアㄣエの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 直喩 イ 隠喩 ウ 擬人法 エ 反語

(2) 同じ技法で同じ内容を表現した箇所を、傍線部①を含む段落から十五字で抜き出して答えよ。

問四 傍線部②「知らず知らずのうちに人生の折りかえし点を失っていくのだ」には、主人公のどのような思いがこめられているか、最も適当なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 生涯の終わる時はあらかじめ決められないので、自覚の無いまま寿命の半分を迎えてしまう。
- イ 生涯の終わる時を自分でイメージしておかないと、自覚の無いまま寿命の半分を迎えてしまう。
- ウ 自分が死ぬ年齢は誰にもわかるわけがないので、自覚の無いまま寿命の半分を迎えてしまう。
- エ 自分が死ぬ年齢をあらかじめ決めておかないと、自覚の無いまま寿命の半分を迎えてしまう。

問五 傍線部③「人生にとっていちばん大事なことはきちんとした形をとった認識なのだ」とあるが、人生においてどのような認識を持つべきだと「彼」は考えているか。本文中から三十字以内で抜き出して答えよ。

問六 傍線部④「直説法過去」と傍線部⑤「仮定法過去」は、どのような意味で使われているか。本文中からそれぞれ、④は十字以内、⑤は二十字以内で抜き出して答えよ。

問七 傍線部⑥「仮定法の亡霊に悩まされる」とはどのようなことか。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア どんなに幸福な人生を歩んでいようとも、過去を振り返って「あのと時別の道を選んでいたらどうなっていたのか」と考えてしまうこと。

イ どんなに幸福な人生を歩んでいようとも、「もしかしたら明日に最悪の事件が起こるかもしれない」という不安につきまとうられること。

ウ どんなに幸福な人生を歩んでいようとも、「実はたくさんの人にうらまれるようなことをしてきたかもしれない」と不安になること。

エ どんなに幸福な人生を歩んでいようとも、「それは人生の半分をのりきっただけで、もし残りの半分で失敗したら意味が無い」と悩むこと。

問八 本文Aの波線部「全力で泳ぎきる」が二回も使われていることからわかるように、人生を全力で泳ぎきることが「彼」の求める生き方である。これと同じ意味の言葉が空欄 2 に入る。その言葉を、本文Aから十字以内で抜き出して答えよ。

問九 本文Bの「ぼく」はこれからの人生をどうしたいと感じているか。水泳の話題を使わず、「ぼく」の年齢とその意味も含めて、五十字以内で説明せよ。

問十 村上春樹と同時代に活躍した作家は誰か。次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 中上健次

イ 有島武郎

ウ 太宰治

エ 志賀直哉

□ 次の古文は『大鏡』時平伝である。読んで後の問いに答えよ。(設問に字数制限がある場合、すべて句読点等は字数に含む)

醍醐の帝の御時、このおとど、左大臣の位にて年いと若くておはします。菅原のおとど、右大臣の位にておはします。その折、帝、御年いと若くおはします。左右の大臣に世のまつりごとを行ふべきよし宣旨下さしめたまへりしに、その折、左大臣、御年二十八、九ばかりなり。右大臣の御年五十七、八にやおはしましけむ。ともに世のまつりごとをせしめたまひしあひだ、右大臣は、才よにすぐれ、めでたくおはしまし、御心おきても、ことのほかに、かしこくおはします。左大臣は、御年も若く、才もことのほかに劣りたまへるに、右大臣の御おぼえ、ことのほかにおはしましたるに、左大臣やすからずおぼしたるほどに、さるべきにやおはしけむ、右大臣の御ためによからぬ事いできて、昌泰四年正月二十五日、大宰権帥になしたてまつりて、流されたまふ。

このおとど、子どもあまたおはせしに、女君達は婿とり、男君達は皆ほどほどにつけて位どもおはせしを、それも皆かたがたに流されたまひて、かなしきに、幼くおはしける男君・女君達、慕ひ泣きておはしければ、「小さきはあへなむ」と、おほやけも、ゆるさせたまひしぞかし。帝の御おきて、きはめてあやにくにおはしませば、この御子どもを、同じかたにつかはさざりけり。

かたがたにいとかなしくおぼしめして、御前の梅の花を御覧じて、

A こち吹かばにほひおこせよ梅の花 あるじなしとて春を忘るな
また、亭子の帝に聞こえさせたまふ、

B 流れゆく我はみくづとなりはてぬ 君しがらみとなりてとどめよ

⑤ なきことにより、かく罪せられたまふを、かしこくおぼし嘆きて、やがて山崎にて出家せしめたまひて、都遠くなるままに、あはれに心ほそくおぼされて、

C 君が住む宿のこずゑを ゆくゆくとかくるまでもかへりみしはや

(注) このおとど…藤原時平。

菅原のおとど…菅原道真。

昌泰四年…西暦九〇一年。七月十五日、延喜と改元。

大宰権帥…九州地方を統治する役所である大宰府の官職。

亭子の帝…宇多上皇。醍醐天皇の父。

問一 傍線部①「左右の大臣に世のまつりごとを行ふべきよし宣旨下さしめたまへりしに」の現代語訳として最も適當なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 左大臣と右大臣がぶつからず世の政治を行う適當な方法が示されたので。

イ 左右の大臣に二人で天皇を補佐する政治を行えと勅旨を下しあそばしたけれど。

ウ 側近として左右の大臣に世の政治をうまく行うのがよいと命令を下しあそばしたので。

エ 左大臣と右大臣が世のために政治を協力して行わなければならない理由が述べられたけれど。

問二 傍線部②「さるべきにやおはしけむ」の現代語訳として最も適當なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア そうなる前世からの因縁でいらっしやっただろうか。

イ 右大臣もそうかもしれないと感じていらっしやっただろうか。

ウ 世間の人々もいずればそうなるはずと思つていらっしやっただろうか。

エ 左大臣はそうしなければならぬと使命感に駆られていらっしやっただろうか。

問三 傍線部③「小さきはあへなむ」の現代語訳として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 小さい罪は許そう。

イ 小さい苦痛は我慢しよう。

ウ 幼い者とは会ってもよいだろう。

エ 幼い者は連れて行って差し支えなからう。

問四 傍線部④「おきて」の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

ア 風習 イ 約束 ウ 規定 エ 処置

問五 和歌Aの「こち吹かばにほひおこせよ梅の花」を、場所を示す語を二つ補足して現代語訳せよ。

問六 和歌Bからは、菅原道真が自信家で激しい気性の持ち主であったことが感じられる。その根拠の一つとなる、和歌A・Bに共通する表現の特徴を、漢字五字以内の語で答えよ。

問七 傍線部⑤「なきことにより、かく罪せられたまふを、かしこくおぼし嘆きて」について、

(1) 「なき」とは何がないのか、漢字一字で答えよ。

(2) 「罪」という古語は現代語の「罪」よりも広い意味で用いられる。現代語で言えば、この「罪」はどんな語で言い換えるのが適切か、漢字一字で答えよ。

(3) 「かしこく」の意味として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア おそろしく イ 申し訳なく ウ 抜け目なく エ ひどく

問八 和歌Cについて、

(1) 「君」とは誰かを考えるとき、和歌Bの「君」が「亭子の帝」を指すことは明らかだが、それと同じように考えることはできない。同歌を収める他の歌集には「妻のもとに」と詞書に記すものもある。「帝」と考えられない根拠となる単語を、和歌Cの中から抜き出して答えよ。

(2) 道真の子孫にあたる人物が『夜の寢覚』という物語に「おぼつかかなながら、かへりたまひぬ。宿のこずゑは、げに、かくるるまでぞ、かへりみられたまひける」と引用している。この人物は『更級日記』の作者でもあるが、この人物は誰か、漢字五字で答えよ。